

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200629		
法人名	社会福祉法人西春日井福祉会		
事業所名	グループホーム ペガサス春日		
所在地	〒452-0962 愛知県 清須市 春日 新町 105番地		
自己評価作成日	令和元年11月18日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同で家事等助け合いながら暮らすことで認知症の症状を緩和し利用者が、自分らしく生活できるよう「思いやりの心」の理念の下支援を行っている。
看取り介護は行っていないが、併設型のグループホームのため、重度化した利用者への法人内の協力体制が出来ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2375200629-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは特養やデイサービスをはじめ、複数の介護事業所と併設されていることで、事業所間で連携した支援が行われている。利用者の中には、関連事業所から入居したり、身体状態等に合わせて関連の特養への移行支援も行われていることで、運営法人全体で利用者の様々な状況に合わせた支援が行われている。関連事業所で行事が行われる際には、ホームからも利用者に参加する機会をつくっており、利用者の楽しみと外出にもつながっている。外部の方との交流については、ホームでも独自の取り組みが行われており、地域の清掃活動に参加したり、ボランティアの方との交流等が行われている。ホームの日常生活については、毎日の食事作りの際には、利用者もできることに参加したり、居室の清掃等を職員と一緒に行う等、利用者の生活が前向きなものになるような支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年12月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「思いやりの心」の理念を念頭において職員は、ケアにあたっている。	理念である「思いやりの心」を職員による支援の基本と考えており、毎月の職員会議等の機会を通じて、職員間で理念の内容を振り返るような取り組みが行われている。また、職員で目標をつくる取り組み等、理念の実践につなげる機会もつくられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃に参加をしたり、保育園の園児訪問、地元消防団との合同避難訓練の開催など地域とのつながりを大切にしている。	地域の方との交流については、併設の特養とも連携して実施しており、今年度より移行した秋祭り際には、多くの地域の方の参加が得られている。また、ホームでも清掃活動への参加や中学生の職場体験の受け入れ等の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治体と協力をして介護の日イベントを開催し地域住民に施設での取り組みを紹介するなどの地域貢献をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況、ホームの運営状況を報告しサービスの向上に努めている。	会議の際には、様々な分野の方の参加が得られており、ホームからの詳しい報告を受けながら、ホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議は特養で行われているが、食事やおやつの時間にホームに来てもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議などを利用し市町村との協力関係を築くよう取り組んでいる。	市内の介護事業所が集まる連絡会には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等の機会につなげている。市の介護相談員とは毎月の訪問や地域包括支援センターとの情報交換の機会がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」に基づいてケアにあたっていたが、認知症症状の進行度合いに応じて施錠している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、併設の特養と連携した委員会の開催等、定期的な現状確認が行われている。職員研修については、ホームでも行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内で虐待が見過ごされることのないよう職員に高齢者虐待防止関連法についての知識にふれられるようはたらきかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在利用者に権利擁護制度を利用している方は、みえないが施設内外の研修を通じ知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の解約の際は、その都度疑問点を尋ね要望なども伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付について第三者委員や他相談機関の連絡先等が掲示してある。	併設事業所との行事の他にも、家族も参加する食事会の開催等、家族との交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、所長代理の他にも所長(施設長)も対応することを明記している。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	所長は人事評定などで年2回は職員との面接を行い意見を聞き、管理者職員の意見や提案を聞いている。	毎月の職員会議や日常的な職員間での意見交換等、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、日常的には所長代理が職員との随時の意見交換を行っているが、所長(施設長)による年2回の職員面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	所長は、職員に目標管理を設定させるため「私の計画書」作成し、やりがいや向上心をもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県グループホーム連絡協議会に所属しており勉強会や研修会でネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族との話し合い、本人の不安・要望などの動向を汲み取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時やケアプラン作成時など必ず家族の要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを導入する前にその方が利用していたサービス事業所などと情報を共有します。また本人・家族と面接を行い、当施設の方針を理解していただくなど適切なサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者を生活の主役として、炊事、掃除、洗濯など家事全般を可能な範囲で主体になってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出・面会などで積極的に関わっていただけるよう、働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出支援などで、本人の家の近所など行き慣れた馴染みのショッピングセンターへ出かけている。 また、近所の方の訪問があり関係が途切れない支援に努めている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問している方や手紙で交流している方があり、馴染みの方との関係継続にもつながっている。家族との外出が行われており、行きつけの美容院に出かけたり、身内の方の墓参りに出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の人間関係を把握しながらテーブルの配置や行動など関わり合えるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後特別養護老人ホームに入所された方に対して面会等行い新しい場所での不安解消に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの生活歴やペースを尊重したケアに努めている。	職員が把握した利用者に関する意向等は、日常的に職員間で情報交換を行いながら、意向等の把握につなげている。職員間で毎月の会議を通じたカンファレンスを実施しており、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時に本人やご家族から可能な限り話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方を、ケース記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族からの要望を良く聞き可能な限り要望に沿ったケアプランの作成に努めている。また、毎月開催のホーム会議を活用している。	介護計画は3か月での見直しを行っており、毎月のカンファレンスを通じてモニタリングを行い、3か月での評価につなげている。また、職員間で利用者への支援内容について、細かな申し送り等を通じて共有しながら日常の支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきをケース記録・申し送りノートに記入し職員間での情報の共有に活かしている。また、ホーム会議内で個別カンファを行い介護計画見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の家族の状況などにあわせ、受診の協力など柔軟な対応をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	傾聴ボランティアの方々に訪問していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	認知症の症状を掛かりつけ医と連携をし適切な医療を受けられるようにしている。	多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続しており、家族による受診支援が行われている。利用者の中には訪問診療も行われており、利用者の状況に合わせた対応が行われている。必要に応じて関連事業所の看護師による支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の特養やデイサービスの看護師に相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院との連絡の場が設けられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の対応やターミナルケアは、行っておらず事前に家族に理解していただけるよう努めている。	現状の支援体制もあり、ホームでの看取り支援を行っていないことを家族にも説明している。ホームでも支援可能な取り組みが行われているが、現状については、利用者の身体状態等に合わせた関連の特養等、次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿った対応が出来るようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	合同避難訓練を年2回行っており、内1回は、地域の消防団にも参加していただき対応できるようにしている。	年2回の避難訓練は併設の特養と合同で実施している。夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われており、事業所間で連携した対応が行われている。訓練の際には地域の消防団の協力が得られている。また、併設の特養に備蓄品の確保が行われている。	ホームの建物が平屋でもあるため、水害に関しては継続的なテーマである。併設事業所との継続的な連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人を尊重した声かけに心掛けてケアにあたっている。	ホームの理念でもある「思いやりの心」を大切に、職員による利用者への声かけ等の意識につなげている。対応が難しい方についても職員間で連携しながら、その方のペースに合わせた支援に取り組んでいる。また、接遇につながる職員研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	無理強いするようなケアにならないよう可能な限り本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせてながら共同生活を営めるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の整容支援、可能な範囲で服の選択や化粧品購入・管理の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は、利用者との会話から嗜好を勘案し決めており、食事作り・準備・食事・片付けを行っている。	職員間で利用者の好みや嗜好等にも合わせたメニューを考えており、利用者の調理や片付け等のできる事に参加した取り組みが行われている。おやつ作りや季節に合わせた食事作りも行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の、水分・食事の摂取量を記録し状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアが行えるよう支援している、出来ない方は一部介助で歯磨きを行っている。また、義歯の衛生管理を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の自立を継続できるようその方の能力に応じた支援をしている。	利用者の状況に合わせた排泄記録を残し、職員間で日常的な申し送り等を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。また、トイレの場所が分からなくなっている方にも声かけを検討しながら、トイレでの排泄の継続に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分の摂取量を促すことや運動を取り入れ、また、毎朝に乳酸菌飲料を取っていたりなど、排便コントロールをすることで、便秘にならないよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は2日に一度行っており、本人のペースに合わせた入浴をしていただいている。菖蒲湯、ゆず湯などの行事湯また、入浴剤を利用し気分を変えることもしていただいている。	毎日の入浴の準備を行っており、利用者は1日おきに入浴しているが、利用者の状況にも合わせて2日連続で入浴することもある。入浴を拒む方にも職員が交代したり、時間を変更する等、定期的な入浴につなげている。また、柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠状況などを把握し、それぞれのペースに合わせた休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報をいつでも見られるようにしてあり、理解しやすい方法をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	随時、趣味の絵手紙や花木の水やりなど、楽しみごと、役割に取り組んでいただいている。また、特養との合同行事での演奏会・運動会など楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日に散歩に出かけるなど外出を行っている。家族の協力でなじみの美容院へ通い地域との交流をつないでいる。	ホームの周辺を散歩したり、併設の特養で行われている行事の際にホームから出かける等、利用者の外出の機会をつくっている。また、季節に合わせた花見や公園等への外出行事の他にも、喫茶や食事に出かける機会もつくられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの利用者が認知症の状態の進行により金銭管理が出来ない状況になっています。しかし、本人希望の品物の購入は出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、自由に使用出来る状態になっています。また家族などへ手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日清掃しており、清潔は保たれている、又花壇作りや、作品作りで季節を感じていただけるようにしている。	ホームのリビングは天井が高く窓が大きいことで、採光に優れた生活環境となっている。窓から広いテラスに出ることができ、テラスで過ごすこともある。また、季節感のある飾り付けや利用者の作品をはじめ、行事での様子を写した写真の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のたたみやソファそれぞれで居間で気のあった利用者同士で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れた馴染みの家具を持ち込んで使用していただいている。	居室には、利用者の馴染みのある家具類や趣味の物等の持ち込みが行われている他にも、利用者の中には身内の方の位牌を持ち込む等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者毎に作成したカレンダーの掲示が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	混乱なく過ごしていただくため、トイレや居室等ご本人が理解しやすいよう案内を掲示するなど工夫している。		